

論文内容要旨

論文題目 幼児が採血による苦痛を乗り越えていくまでの苦痛行動評価尺度の
開発

教育・研究領域：生涯生活支援看護学

氏 名：三上 千佳子

【内容要旨】

『処置室入室から退室における採血を受ける幼児が苦痛を乗り越えていくまでの苦痛行動評価尺度』（以下、『尺度』とする）の開発を目的に研究を行った。幼児の採血時の行動観察と保護者への聞き取り等を行い、幼児の採血時の行動に関する記述部分を質的分析し、得られたカテゴリーとコードから『尺度』（原案）を作成した。専門家による検討を行い、『尺度』（原案）の修正を行った後、『尺度』（修正版）の信頼性と妥当性を検討した。その結果、作成した『尺度』（修正版）の信頼性と妥当性が確認され、幼児の採血時の苦痛行動を3段階尺度で評価することのできる『処置室入室から退室における採血を受ける幼児が苦痛を乗り越えていくまでの苦痛行動評価尺度』を開発することができた。

平成 29年 1月 23日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学位論文審査結果報告書

申請者氏名：三上千佳子

論文題目：幼児が採血による苦痛を乗り越えていくまでの苦痛行動評価尺度の開発

審査委員：主審査委員 片岡ひとみ

副審査委員 藤田 俊

副審査委員 佐藤 幸子

審査終了日：平成 29年 1月 19日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

本研究は、採血を受ける幼児が採血による苦痛を乗り越えていくまでの過程における苦痛行動評価尺度の開発を目的としている。採血は子どもにとって身体的・心理的苦痛をもたらす体験であり、苦痛が軽減される子どもがいる一方、苦痛が継続する子どもがいることや採血時の支援内容に関する研究について報告されている。しかし、幼児の採血時の苦痛行動がどのように変化し、苦痛を乗り越えていくのか、その過程は明らかにされていない。そこで、本研究は幼児が採血による苦痛を乗り越えていくまでの過程における苦痛行動を評価する尺度開発を目的としている。

原案の尺度作成にあたり、3～6歳の患児とその保護者22組を対象に、患児の採血時の行動観察と保護者への聞き取り調査を行い、患児の採血時の行動に関する記述より質的分析を行っている。次に専門家による検討の結果、15個の評価項目について3段階で評定する尺度（修正版）を作成し、表面的妥当性、内容的妥当性を検討している。さらに、構成概念妥当性を検討するために因子分析を行った結果、本尺度は0.40以上の因子負荷量を示す3因子で構成されており、構成概念妥当性が確認された。また、外的基準となる尺度との相関関係より、基準関連妥当性が確認されている。そして、尺度全体のクロンバック α 係数0.902より内的整合性が確認され、信頼性が支持された。今後、この尺度を活用することによって苦痛の程度に応じた看護支援方法の検討が可能になることが期待できる。

論文は規定に即して記述されており、倫理的配慮を始めとする研究の手続きは適切である。得られた結果、考察、結論等に対する審査委員からの質問や指摘に対して真摯に対処されており、その内容は納得できるものであった。

以上のことから、本論文は博士論文として相応しいと評価した。